

---

■ さろん | Mail News 2017/2/15 | #85 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

---

「さろん」や哲学カフェ界限の情報をご案内いたします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも弊会を応援いただければ幸いです。

なおメールニュース掲載のコラムは執筆者の個人的な考えを表したものであり、会や専門領域における統一見解とは異なる場合がありますのでご了承ください。

---

---

=====Vol.85 2017年2月15日(水)=====

さ | ろ | ん |  
└ ┘ └ ┘ └ ┘

M | a | i | l | N | e | w | s |  
└ ┘ └ ┘ └ ┘ └ ┘ └ ┘ └ ┘

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

---

INDEX

- | 【おしらせ】(2/22) 純喫茶ゆるみカフェ
  - | 【1】コラム/エッセイ
    - ◇『刹那』
    - ◇『自分の言葉の描くもので——』
  - | 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています
  - | 【2】コトバをハーバリウムする
  - | 【3】さろんアーカイブの遊歩道
  - | 編集後記
- 

CONTENTS

---

【おしらせ】

(2/22) 純喫茶ゆるみカフェ  
テーマ「好奇心」

---

通称『ゆるカフェ』。地味に営業中です。

今月のテーマは「好奇心」。2月22日（水）19:15-21:30開催です。  
今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。  
ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで

2月22日（水）19:15より

渋谷エリア（申込者にご案内）

参加費100円（別途、注文した飲食費実費をお支払いください）

お申込み：salontetsugaku@gmail.com

（幹事：せりざわ）

---

### 【1】コラム／エッセイ

---

▽【刹那】

聖理

▽【自分の言葉の描くもので――】

セリンジャー

---

▽【刹那 \*1】

聖理

唄を聴く。歌う。どちらも好きである。なぜか？と訊かれても、理由を答えられない。リズムやメロディーが繰り出す波動が自然と胸を揺さぶることに加え、歌詞が持つドラマやメッセージは、聴く人に感情を伝え、ときとして激しい涙さえも誘う。そこには共感のメカニズムが組み込まれているのかもしれない。以前から個人的に、“GReeeeN”という音楽グループが気になっている。マスメディアに決して顔を出さずに、「音楽グループはこうあるべき」といった現在の社会が前提化している本質を無視する。まるで「自分達はそういう前提化された本質以前に存在をしている」という実存主義的な彼らの考えを暗示しているかのようである。「愛唄」や「キセキ」等も大好きであるが、今月は同グループの「刹那」という唄の歌詞について一緒に考えてみたい。

まず「死からの逆算」である。『運命だとか、人生だとか。ようは最後の一秒に笑ってたくて、ただそれだけで、全て答えは自分の中』（以下、引用歌詞を『 』で示す）。人は誰もいつか死ぬ。根本的で普遍的な死因は“生まれたこと”そのものである。死ぬ瞬間を想像し、その最後の瞬間には笑っていたい。そうなることこそが自分の幸せであろう。ハイデガーが説く\*2ように、日常の惰性に流されず、自分の死を意識し、そこから逆算しながら、今何をすべきかを考え、生きて行く。そうすることこそが人間の本来の生き方なのである。この考え方は、私達の身近にも良く見受けられる。主人公が死闘を経ながら成長していく冒険物語や危機的状況を切り抜ける中で生きる意味を見つけるパニック映画等が代表例であろう。

次に「メタ視点」である。『遠くにかすかに、見える理想の自分がまた「後悔しないように、生きてる？」って微笑み、少し泣いた』。これはメタ視点で自分を客観視することを表している。メタ視点とは一段高い次元から自らを俯瞰して冷静に省みる視線のことである。理想の自分を「生きる意味を見つけた未来の自分」と想定し、一段高い次元におく理想の自分から現在の自分を冷静に観察

し、反省する態度である。メタ視点を備えることが、人を人たらしめている所以であって、他の動物から一線を画することができるとも言われる。この歌詞にあるメタ視点での自己反省は、哲学対話でも良く使われる手法であり、一つの典型的な哲学的態度であろう。

最後に「生きる意味」である。『きっと僕らは輝きたくて、生きる意味を探してた。負けないように、枯れないように、強く願い生きてく』。生きる意味とは何か。生き甲斐とは何か。誰も、一度は考えたことがあるのではないか。この唄は、その「生きる意味」を真正面から質している。ニーチェが説く\*3ように、人生には辛い、苦しいときがあり、その瞬間を耐え、強く跳ね返すことによって初めて自己の人生の意義を築ける道がある。「生きる意味」は予め与えられてどこかにあるのではなく、自分自身がその人生をかけてその意義を築き、意味付けをしていくのである。歌詞に戻れば、人は生きる意味を探して人生を過ごすのであるが、『全て答えは自分の中』にしかない、と結ぶ。

「刹那」という唄の歌詞は「人生には辛いことや苦しいことがあるが、前向きにそれらを受け止め、へこたれず生きて行くことによってこそ、人間は“生きる意味”を自分の中に見つけることができるはずである」と訴えている。私には、実存主義的にも読めるこのメッセージ、人生の捉え方を素直に受け止め、納得することができる。さて。どんな唄にもメッセージがある。以前何気なくカラオケで歌ったあの唄、携帯端末で良く聴いているこの唄にも良く考えてみれば、意外に深い、哲学や思想を伝えているかもしれない。たまには、好きな歌詞を純粋な詩として味わってみたら如何だろうか。そこに潜むメッセージに意外な発見があるかもしれない。読者の方々の好きな唄は何だろうか？

\*1 : 「刹那」 by GReeeeN : <https://www.youtube.com/watch?v=2ZJFDhLPL0I>  
<http://www.utamap.com/showkasi.php?url=A03902>

\*2 : 木田 元著 : 「現代の哲学」

\*3 : 渡邊二郎著 : 「自己を見つめる」

▽【自分の言葉の描くもので——】 セリンジャー

すこし古いニュースですが、昨年の流行語大賞がなんだったか覚えていますか。〈保育園落ちた日本死ね〉、〈PPAP〉、〈新しい判断〉などがノミネートされていましたが、大賞は結局〈神ってる〉\*1でした。個人的には〈盛り土〉とか〈ゲス不倫〉の方が2016年の記憶と結びついた風景として馴染みがありますが、それはさておき、その年を代表する言葉を選ぶ企画は海外でも年末の風物詩として行われているみたいです。英オックスフォード大出版局によると「2016年に注目を集めた英単語として〈客観的な事実や真実が重視されない時代〉を意味する形容詞〈ポスト真実〉(POST—TRUTH)を選んだと明らかにした。英国の欧州連合(EU)離脱を巡る国民投票や、トランプ氏が勝利した米大統領選の選挙運動の過程で使用頻度が急増したという。〈ポスト真実の政治〉などの形で使われ、真実や事実よりも個人の感情や信念が重視される米英の政治文化や風潮を表現していると評価された」\*2 そうです。それぞれのメディア性格が違うので単純な比較ができないとはいえ、〈神ってる〉と〈ポスト真実〉では見ているモノがずいぶん異なる印象を持ちますね。

ところで「客観的な事実や真実が重視されない時代」とか「真実や事実よりも個人の感情や信念が重視される」風潮とあって、一体どういうものでしょうか。あるいはどんな“事態”（？）なのでしょう——。哲学カフェなんかに出かけるのが習いになっている人たちからするとなんだか穏やかならざるものを感じたりもしますが、前提をしつこく疑ったり、見解の真偽を判断する基準についてだったり、その基準の妥当性であったりについてセンシティブである対話のフィールドから捉え返してみると、これまたずいぶん異なるあり様もあるものだなと思いますよね。ですが、この〈ポスト真実〉という見方も一過性の流行語かもしれません。国際政治の専門家ではないので詳しいことは分かりませんが、〈ポスト真実の政治〉は Brexit やトランプショックみたいな大胆な変化に対する一見冷静なまなざしのようにでいて、実は感情に流されただけの結果ではなく歴史が齎した必然の帰結、——であるのかもしれない。そんな風に想像してみる時、〈ポスト真実〉という形容詞を肯定的に使用する側の人たちが抱えている「客観的な事実や真実を重視している」という信念や感覚が、どんな風に正当化されているのだろうか、という（とても哲学カフェ様な）興味が起こってきたりします（しませんか？）。

じぶんの言葉の描くものに対して注意深くあるという態度を、さろんのイベントに参加しているとより意識します。「あ。いまじぶんの話がうまく伝わらなかったな」という感覚だったり、「そこを強調したかったわけではないんだけど」という記憶が重なると、結果的にじぶんの言葉に対する感度が高まるということになるかもしれません。川端康成が『雪国』の中で「自分の言葉の描くもので体まで温まって来る風な」という書き方をしていましたが、もしかすると胸ときめくようなそういう瞬間も訪れたりするかもしれません。話は変わりますが、昨年 11 月にあったスタッフの勉強会の中でさろんのミッションについて考える時間があり、そこでさろんの会則を改めて見直しました。さろん会則の第 3 条（目的）の項には、〈この団体は、「考え、感じ、対話すること」に関する事業を行うことにより、もって参加者およびスタッフの満足に帰することを目的とする〉と書いてあります。この会則の決定にはじぶん自身もタッチしていたし、その文言についても策定に際してはかなり揉んだ覚えもあったんですが、正直なところだいぶ記憶の彼方だったみたいです。

この目的を読み直す直前までは、ミッションは、哲学カフェを中心にその隣接領域とも横断しながら、対話やワークショップをイベントを通じて実践・探求していくことで人生を豊かにしていく——みたいなことを個人的にはイメージしていたのですが、この会則を読んで、それまでのじぶんのイメージがけっこう狭量なものだったなと思いました。好みは人それぞれあるでしょうが、〈考え、感じ、対話すること〉に関する事業を行うというフラットな書き振りは、じぶんにはすごく自由を感じさせるものでした。“考えること（思考）”と“感じること（感性）”がどちらが上ということもなく対等に並置されながらも分断されているわけではなく、“対話すること”という要素とも繋がってトリニティを形作っている——そんな風に感じられて、胸が暖かくなるような、視界が開けるような、そういう気分になったりしました。哲学書に綴られた真理や偉人の箴言と同じように、いや時にそれ以上に、他ならぬじぶん自身が刻んだ言葉だからこそより強く信じられたりするのかもしれない。

さて。2017 年がスタートして一か月が経ちましたが、そんなわけで、「さろん・序」や「ゆるカフェ」に留まらないさろんの新しい取り組みが、これから少しずつ（だけど着実に）顔を出してくると思います。ぜひ一緒にご参加くださいな。

\*1) : 「2016年ユーキャン新語・流行語大賞」

<http://singo.jiyu.co.jp/>

\*2) : (共同通信) 今年の単語は「ポスト真実」英オックスフォード大出版局

<http://this.kiji.is/171721021171762684>

---

【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称 : 【さろんラボ】

コーディネーター : 【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

この「さろんラボ」からは、さろんの参加者の手で、

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/> が生まれ、

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティテーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/> も生まれました。

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当 : 大村)

---

【2】

コトバをハーバリウムする #16 (楠)

本のコトバから

対象と深くかかわり全面的に没入すると同時に、対象を容赦なく突き放し切って捨てること。同化と異化のこの鋭い緊張こそ、真に知と呼ぶに値するすぐれてクリティカルな体験の境位(エレメン

ト)であることは、いまさら言うまでもない。簡単に言ってしまえば、シラケつつノリ、ノリつつシラケること、これである。

——浅田彰『構造と力』

---

歌のコトバから

---

胸にしみる 空のかがやき  
今日も遠くながめ 涙をながす  
悲しくて 悲しくて  
とてもやりきれない  
このやるせない モヤモヤを  
だれかに告げようか

——ザ・フォーク・クルセダーズ『悲しくてやりきれない』（作詞：サトウハチロー）

---

【3】

---

さろんアーカイブの遊歩道 #10 (た)

---

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第5回

テーマ： 「こころの豊かさとは何だろうか？」

開催日： 2011年1月12日

[http://salon-public.com/wp-content/uploads/2013/01/salon\\_giji\\_05.pdf](http://salon-public.com/wp-content/uploads/2013/01/salon_giji_05.pdf)

『「こころ」ってなあに？』

『そのとき、そのいるところに合わせてかたちを変える、目に見えなくて手でさわれない、容れ物のことさ。』

『じゃあ、「豊かさ」ってなあに？』

『たくさん、たくさん、あることさ。』

『ふうん。それなら、「こころの豊かさ」って、かたちを変える容れ物のなかが、たあくさんのものでいっぱい、ってことだね。』

『そうさ。だから、こころを豊かにするんだったら、次のことに全力を注げばいいだけさ。容れ物をできるだけ大きくして、そのなかへ、せっせとたくさんのもを運び込むんだ。』

『でも、わからないよ。容れ物はどうやったら大きくなるの？たくさんのもって何のこと？目に見えないし、手でさわれない容れ物に、どうやって運び込むの？』

『むかしむかしに、森のふくろうさんたちが、ふたつのことから考えてみたことがある。つまり、心配ごとがなく、楽しくて、うれしくて、自分の好きなように使える時間を過ごすこと、と、自分じゃない人と会って、おしゃべりをしたり、一緒に何かをしたりすること。』

『それもいいね。けども、やっぱり、まだ他にもありそうな気がするな。いまのふくろうさんたちはどんなことを考えてるか、聞いてみたいな。』

---

---

## 編集後記

メールニュース第85号をお届けします。

立春を過ぎてしばらくが経ちますが、関東以外では記録的な積雪を記録しています。鳥取砂丘が大雪で真っ白になっている景色はずいぶん奇妙な感じで、今回の大雪のすごさを感じますね。皆さままだまだ寒さに十分ご注意くださいね。

昨日はバレンタインデーでした。

本命、義理チョコ、友チョコと、あらゆる方向に対してチョコをふるまう日になっているようで、”お中元/お歳暮/お土産”に代表される日本の贈り物文化にうまく浸透しているなど感心してしまいます。それだけに、気を遣ったり遣われたりする気苦労(?)もどうしてもついてまわりますが。でもあの頃、学校でチョコをもらったりするの、嬉しかったですよね(遠い目)。

今週18(土)はさろん哲学「ホッと一息」、22(水)はゆるカフェ「好奇心」、25(土)はさろん・序「プラトン『ソクラテスの弁明』」と下旬にかけてイベントが目白押しです。

日曜に開催した朝さろん「美德のよろめき」はこんな感じでした。

[http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/hondana\\_65.pdf](http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/hondana_65.pdf)

今月も沢山の方のお越しをお待ちしています！

年度末に向けて忙しさが増す方も多いでしょうが、これからは次第に暖かくなりますね。近所の河津桜をみながらスタバのさくらラテでも飲んで、春の訪れを心待ちにしたいとおもいます。それではまた、次号にてお会いしましょう。ほう。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2017/2/15

⇒次号 (3月1日発行予定)

---

さろん Mail News 第85号 / 2017年2月15日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

salontetsugaku@gmail.com

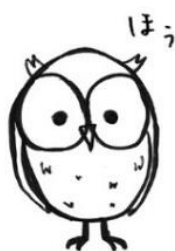
<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

---

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。  
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。 転載ご希望の場合はご連絡願います。  
バックナンバーはHP からご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
  - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
  - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
  - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2017 さろん. All rights reserved."

---